

志村真介先生 季世恵先生

ありがとうございました

保健医療学専攻 看護学分野 修士課程 2年
櫻井良子

「障がい者だから・・・こそ」。

この言葉が頭から離れなくなりました。

「～だから」とは、誰が決めたことなのでしょう。多くの場面で知らず知らずのうちにそういった価値観を持ち、それを疑うこともしなかった自分自身のことを、改めて考えさせられています。

今回お話しいただいたことを、自分の体験を通して感じたことがありました。

私には視覚障害を持つ兄がおりました。右眼は全盲、左眼の残された視野は2%の弱視でした。視覚に制限があるにも関わらず、どこから情報を得るのか多くのことを知っていました。本が大好きで新刊の情報を得ると、私にインターネットで買わせました。

私は内心、「眼が見えないくせに、何で読書するんだろう」などと思ったものでした。そんな兄は、拡大鏡を使い時間をかけて読書をしていたようでした。読書一つするにしても視覚が制限されていた分、時間がかかることはもちろんです。

しかし他の感受性が鋭いためか、記憶することが得意でした。そして自分の意見を持ち、私にとっては頼りになるご意見番でした。

兄は1年半前に急死しました。

今思うことは、私の役割は間違っていたと思います。

私は生活の場面での介助をすることばかり考えていましたが、兄の得意な部分を活かすことができる場所を探し、そこで活躍できるように介助することこそが、本当の関わりであったと気付きました。

兄にとっての、「～だから・・・こそ」を探してあげたかったと後悔しています。志村先生のお話を2年前に聴いていたら・・・などと考えています。

私は看護師をしております。これからも多くの患者さんに出会います。患者さんとの関わりの中で、今回感じたことを活かせるようにしたいと思います。

患者さんのことを「～だから」ではなく「～だから、こそ」という視点で、援助をしていけるような看護を目指して、日々懸命に働いていきたいと思います。とても大きな目標ではありますが、少しでもできるように努力をしていける人間になりたいと思います。

先生のお優しい語り引き込まれ、1時間半の授業時間が短く感じました。最後に遠隔の小田原キャンパスにも声をかけてくださり、とてもうれしかったです。

ありがとうございました。

